

Title	企業の省エネルギー投資における一考察 - アンケート調査による実証研究 -
Sub Title	
Author	岡村脩二(Okamura, Shiyuuji) 加藤寛
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0074

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	岡村 脩 二	主査	加藤 寛	教授
	(エッソ・スタンダード株式会社)	副査	藤枝 省人	教授
所属ゼミナール	藤枝 省人 研		小林 規威	教授

「企業の省エネルギー投資における一考察」 — アンケート調査による実証研究 —

省エネルギーの推進は、代替エネルギーの開発と並んでわが国のエネルギー政策の柱である。「消費効率の改善」という定義付けから消費原単位でみる省エネルギーの現状では産業部門の省エネに負うところが大きい。今後においても、企業が利益の最大化という行動基盤を持ち、この部門の占める消費量が最大であることから、特に製造業を中心とする企業の省エネへの期待は大きい。これまでの企業における省エネ活動は管理運営の強化等比較的投資を要しないものが多かった。しかしながら今後の省エネ活動の余地は本格的設備投資を伴う分野にあると考えられる。現在までの省エネ投資の内容は対全投資額の比率で3～4%であり投資項目における優先度も後位にある。そこで本研究では企業の省エネ活動、特に省エネ投資に影響を及ぼす要因の分析をテーマとした。

具体的には5つの仮説 (1) エネルギーコストの高い企業程省エネ投資に積極的である (2) エネルギー価格の予測が高い程省エネ投資に積極的である (3) 省エネルギー投資と他の投資との間において投資評価の基準が異なる (4) その基準の違いは企業の経営志向の違いに基くものである (5) その志向性の違いはリスクを伴う利益機会に対する取組みの姿勢が「積極的」であるか「追従的」であるかによる、を設定し、企業アンケート調査を中心とする分析を行った。この結果仮説(1)は十分に支持され、仮説(2)は傾向値が認められた。仮説3.4は定性的側面で支持されるが定量的裏づけでやや不足した。仮説(5)では投資の経済計算基準及び定性的評価基準の差異は企業志向の違いにより一応の説明力を得た。以上の仮説の検討をふまえ、省エネ投資の阻害要因として外的要因では、エネルギーコスト・需給についての不確実性の存在と景気動向に基く投資効率への影響を挙げ内部要因としては資金力の弱さ、リスク回避的消費志向を挙げた。これらの要因が投資の評価基準を厳しいものにしていくと考える。結論的には、企業が省エネ投資をコスト削減による市場競争力の増大につなげる重点戦略としての重要性から潜在的省エネ投資機会により有効なインセンティブを与える誘導政策が必要と考える。